

自己モニターを伴う1ヶ月集中音読練習のスピーキング力への影響

Effects of Self-Monitored Intensive Reading-Aloud

Program on the Participants' Oral Performance

高山 芳 樹

Yoshiki TAKAYAMA

英語科教育学*

要旨

本研究は、「自己モニター」(self-monitoring)を伴う1ヶ月集中英語音読プログラム(以下、「音読マラソン」と記述する)が、プログラム参加者の英語運用能力へ与える影響を実証的に検証した高山(2004)の継続研究である。

音読マラソンでは、参加希望者は7種類の音読用英文とともに携帯用カセットテープレコーダーや音読録音用カセットテープを貸与され、自己管理の下、1ヶ月間で音読回数150回達成をめざす。参加者はこの間、音読練習を10回行う毎に自己の英文音読をテープに録音し、自分の音読を聞いて自己モニターをするという作業を継続する。

本研究では、音読マラソン参加者に参加前・後に課された高山(2004)の英文の音読パフォーマンス・タスクに加え、英問英答のスピーキング・タスクの成績の変化を調査し、音読マラソンが参加者の実際の音読技能を向上させるのに貢献するかどうか、さらに、スピーキング力向上にも効果があるかどうかを検証した。成績の評価者は、日本の大手英会話学校に勤務する英語を母語とするアメリカ人のベテラン教師3名である。

実験の結果、自己モニターを伴う1ヶ月集中音読練習によって音読技能は高まること、特に音読技能の低い学習者にとっては即効性があることが明らかとなった。一方で、スピーキング力は向上せずに、むしろ過剰モニターによってスピーキングの際に何らかの悪影響を及ぼす可能性があることがわかった。

キーワード：音読，自己モニター，スピーキング

* Department of Teaching English as a Foreign Language